



カブトムシの幼虫は何を食べるの

くさりかけの木や、落ち葉がえさ

カブトムシの幼虫は、くさりかけの木や落ち葉を食べます。くさった木の切りくず、クリなどの木のくさった物、ふ葉土、たいひなどがえさになります。飼うときは、これらを水そうに、20センチメートル以上の深さになるように入れます。

幼虫は1年かけて成長

卵からかえった幼虫は、くさった木などを食べて育ちます。ふ葉土の中を、けっこうあちこち、動き回ります。大きくなるにしたがい、食べるえさも、ふんも多くなります。飼っている場合は、えさの中にふんが多くなったら、ふんの混じったふ葉土を取りかえます。取りかえる回数が、1か月に1度ぐらいになるように、1つの容器に入れる幼虫の数を、へらしていきます。

真冬は、えさを食べませんので、土の取りかえもいりません。春になり暖かくなると、再びえさを食べ始めるようになり、6～7月に、さなぎになります。

自然がいちばん

動物園では、お客さんに見せるカブトムシを、「たいひ」で育てています。いくつかのたいひ置き場の中で、平らな場所に、落ち葉やかれ木を積み上げたただけのものからは、たくさんのカブトムシが産まれたそうです。同じように積み上げて、周りをさくで囲ったものからは、産まれる数が少なかったということです。さくのため、湿り気が多くなったのが原因ではないか、と考えられています。とにかく、自然の状態のままが、いちばんということです。（監修・中山 周平）

